東京アマデウス合唱団

第28回定期演奏会

F. Mendelssohn

und

F. J. Haydn

Tokyo Amadeus Chorus

カトリック麻布教会

2009 年 10 月 12 日

PROFILE

指　揮　水野 克彦

東京藝術大学卒業。
ピアノを滝崎鎮代子、クラリネットを千葉国夫、 室内楽を細野孝興の各氏に師事。オルガンの手ほどきを今井奈緒子氏に受ける。
藝大バッハカンタータクラブに在籍中、小林道夫氏の薫陶を受ける。
日本オルガニスト協会会員。

ソプラノ　高橋 節子

札幌大谷短期大学音楽科卒業、東京藝術大学声楽科卒業、同大学院修了。
在学中に藝大バッハカンタータクラブに所属。また、藝大定期ハイドン「天地創造」にソリストとして出演。国際ロータリー財団奨学生としてドイツ・フライブルクに留学。帰国後、日本声楽コンクールで田中路子賞を受賞。
現在までに、藤田道子、戸田敏子、伊原直子、エヴァ・マリア・ハツァイの各氏に師事。アンサンブル《BWV2001》メンバー、東京室内歌劇場会員、二期会会員。

Symphonia Fons Harmoniae

ヴァイオリンⅠ　海保あけみ

東京藝術大学卒業。ヴァイオリンを正岡紘子、山岡耕筰、日高毅の各氏に、室内楽を黒沼俊夫氏に師事。
又、藝大バッハカンタータクラブにて小林道夫氏の指導を受ける。
現在フリーの演奏家として、室内楽・オーケストラ等の演奏を中心に活動中。

ヴァイオリンⅡ　片桐 恵里

武蔵野音大付属高校卒業。東京藝術大学音楽部卒業。同大学院修了。
ヴァイオリンを掛谷洋三氏、浦川宜也氏に、室内楽を、ピュイグ・ロジェ女史、ルイ・グレーラー氏に師事。第四回埼玉県新人演奏会に出演。
東京ハルモニア室内オーケストラのメンバー。

チェロ　伊藤恵以子

東京藝術大学卒業。同大学院博士課程修了。
チェロを三木敬之、レーヌ・フラショー、倉田澄子の各氏に師事。
パリ・エコールノルマルで学ぶ。第 48 回日本音楽コンクール入選。
Ensemble Delice のメンバー。

コントラバス　栗田涼子

東京藝術大学音楽学部卒業。同大学院修士課程修了。
コントラバスを、永島義男、黒木岩寿の各氏に師事。
2007 年、ミュージックマスターズコース in かずさに参加。
バッハ協会管弦楽団の公演に出演するなど、フリーの演奏家として活動中。

オルガン　堀江 和子(練習ピアニスト)

武蔵野音楽大学短期大学部ピアノ科卒業。
キリスト教音楽学校パイプオルガン科卒業。同研究科程修了。
ピアノを水本雄三、 野村文子、オルガンを高橋靖子の各氏に師事。
茗荷谷キリスト教会オルガニスト・聖歌隊伴奏者。
日本オルガン研究会会員。

ご　挨　拶

本日はお忙しい中をご来場賜り、厚く御礼申上げます。

今年は、「**メンデルスゾーン**」の生誕200年と、「**ヨーゼフ・ハイドン**」の没後200年に当りますので、これを記念して二人の作曲家の作品から演奏する曲を選んでみました。

2004 年から5年の間カトリック麻布教会のご好意とご高配を賜り、今年もこの素晴らしい響きの聖堂で演奏出来ます事を、団員一同心から厚く御礼申し上げます。

水野先生の懇切なご指導と、練習ピアニストの堀江和子さんのオルガンに加え、海保先生のオーケストラの素晴らしい伴奏とソプラノの髙橋節子さんという大きな援助を頂き、更に本日ご来場の皆様方からの暖かいご支援と励ましにも支えられて、このような演奏会を開催できる事を嬉しく思っております。

この荘厳な聖堂の雰囲気の中で、「200年前に生まれた作曲家と亡くなった作曲家」の、それぞれ特徴のある響きを聴き比べて頂ける様な演奏が出来ましたら、合唱団としてはこの上ない喜びであります。

東京アマデウス合唱団　　団長　　柿沼　晢

PROGRAM

Mendelssohn und Haydn

Felix Mendelssohn (1809-1847)

Herr, sei gnädig (Zum Abendsegen)
主よ、私たちの哀願に慈悲を給え（夕べの祈りのために）

Ich weiche nicht von deinen Rechten
私はあなたの義から離れません

Deine Rede präg ich meinem Herzen ein
あなたのお言葉をわたしは心に刻みます

Trauergesang op.posth.116
嘆きの歌　　遺作 116

Hör mein Bitten
私の願いを聞いて下さい

—（休　　憩）—

Franz Joseph Haydn (1732-1809)

Responsoria de Venerabili
尊い秘跡のための応誦

I　Lauda Sion Salvatorem
誉め讃えよ、シオンよ、救世主を

II　Laudis thema specialis
特別な賛美の題目

III　Sit laus plena, sit sonora
賛美が満ちますように、響きますように

IV　Quod in coena Christus gessit
キリストが司った晩餐

Missa brevis Sancti Joannis de Deo
小ミサ曲　聖ヨハニス・デ・デーオ

Kyrie　憐れみの讃歌

Gloria　栄光の讃歌

Credo　信仰宣言

Sanctus　感謝の讃歌

Agnus Dei　平和の讃歌

（選曲　辻村順子）

ハイドンとメンデルスゾーン

水野克彦

今から200年前、ヨーゼフ・ハイドン（1732ー1809）はあの世へ旅立ち、フェーリクス・メンデルスゾーン（1809ー1847）がこの世に生まれました。今年2009年の東京アマデウス合唱団定期演奏会はこれを記念してハイドンとメンデルスゾーンの作品を取り上げます。

しかしこの演目構成には、何の関係もない二人を敢えて組み合わせてしまったとの感が否めません。この二人の間には音楽的に重要な結びつきは無く、人間的性格や生活環境も正反対だと思います。

例えば、ハイドンはオーストリアのハンガリーに近い田舎で車大工の息子として生まれ、苦学の末に立身出世をしたのですが、ドイツのハンブルクで裕福な銀行家の家に生まれたメンデルスゾーンは、高名な学者たちから音楽を含む諸学問の英才教育を受けることができました。苦労人のハイドンに比べるとメンデルスゾーンの生涯は幸せそのものにみえます。しかしハイドンはメンデルスゾーンの二倍も生きることができました。

とはいえ、考えてみると共通点も幾つかあります。その一つは、二人とも後世の音楽界から必ずしも常に最高の評価を得ることがなかったという点です。つまり、バッハやベートーヴェンに比べるとどうも芸術性が一段低いのではないかと考えられてきたのです。なるほどハイドンは「交響曲の父」と讃えられるが「音楽の父」バッハ程ではなかろう、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲の切なく甘いメロディーは素敵だが「楽聖ベートーヴェン」のような崇高さがないのでは、など。しかし近年、幸いなことに二人の業績に対してそれぞれ正当な再評価がなされ始めました。

共通点といえばもう一つあります。二人とも何度かイギリスに招かれて大成功を収め、人気を博したのです（ちなみにベートーヴェンもイギリスで成功したいと願ったのだが遂にその機会は訪れなかった）。そのイギリス訪問の折に、当地でヘンデルのオラトリオ「メサイア」が愛好されているのを知ったハイドンは、そのことに触発を受けて「天地創造」と「四季」を作曲したらしい。そしてメンデルスゾーンにとっても、二曲のオラトリオ「聖パウロ」と「エリア」を創作するうえでヘンデルの存在が大きかったに違いありません。

さて、本日の演奏曲目も、メンデルスゾーンの「嘆きの歌」を除けば、オラトリオのような大曲ではありませんがどれも宗教曲です。現代に生きる私たちからすると、古い時代へ遡るほどに人々の宗教心も純粋に強かったのだろうと想像しがちなのですが、勿論そんなことはありません。キリストの時代にも無神論者はいたわけですから。だからハイドンとメンデルスゾーンが信仰を持っていたかどうかは、本当には判らないことです。しかし、作品から受ける印象や彼らの伝記を読んで想像するにつけ、二人とも純粋なキリスト教信仰を持っていたのだと私には思われてなりません。ことにメンデルスゾーンは、父親がユダヤ教からキリスト教ルター派プロテスタント教会へ改宗した故に、あるいはそれにも拘らず、敬虔なキリスト教徒として生涯を終えました。そしてメンデルスゾーンにとって重要だったのは、彼が規範とし、師とも仰ぐ大バッハがまさにルター派プロテスタントだったということでしょう。メンデルスゾーンの宗教曲にはバッハや、それよりも古い偉大な教会音楽家から学んだ精神が、本日演奏する小品にすら表れています。

ハイドンはプロテスタントではなくカトリックでした。だから彼が作曲した宗教曲はカトリック教会で執り行われるミサやその他の典礼に使用するための曲です。ハイドンの重要な六曲のミサ曲と二曲のオラトリオは晩年になって作曲されました。年老いても衰えなかったハイドンの創作力は最後に宗教曲へと注がれたのです。しかし若いころに作ったミサ曲なども捨てがたい美しさを持っているので、もっと演奏されたらよかろうと思います。本日演奏する「尊い秘跡のための応誦」と「ミサ曲　聖ヨハニス・デ・デーオ」もそのような佳作です。

さて、小論はこの辺りで終えて、演奏曲目の短い解説と対訳を以下に掲げましょう。

Felix Mendelssohn

フェーリクス・メンデルスゾーン

Herr, sei gnädig (Zum Abendsegen)
主よ、私たちの哀願に慈悲を給え（夕べの祈りのために）

詩はイギリス国教会の夕べの祈りの讃美歌「主よ、我らにお慈悲を」による。集中度の高い、密度の濃い対位法的書法でまとめられていて感動に満ちた細密画の趣がある。

Herr, sei gnädig unserm Flehn,	主よ、私たちの哀願に慈悲を給え。
und erfülle uns mit deinem Geist;	私たちをあなたの御霊でお満たしください。
Herr, erhör uns!	主よ、私たちの願いをお聞き届けください。
und schreib in unser Herz dein Gebot.	私たちの心の内にあなたの掟をお書きください。

Ich weiche nicht von deinen Rechten
私はあなたの義から離れません
Deine Rede präg ich meinem Herzen ein
あなたのお言葉を私は心に刻みます

「十三の詩編モテット（1821/22）」としてドイツのカールス社により（多分）世界で初めて出版された曲集からの二曲。メンデルスゾーンが十二、三歳の頃に作曲した作品であろう。対位法の習作といったおもむき。「私はあなたの義から離れません」は旧約聖書 詩編 第119編102節に、「あなたのお言葉を私は心に刻みます」は旧約聖書 詩編 第119編11節による。

Ich weiche nicht von deinen Rechten,	私はあなたの義から離れません、
denn du hast mich unterwiesen.	私に御教えを与えてくださったからです。
Deine Rede präg ich meinem Herzen ein,	私はあなたのお言葉を心に刻みます、
auf daß ich wider dich nicht sündige.	あなたに逆らって罪を犯すことのないように。

Trauergesang op. posth.116
嘆きの歌　遺作116

1845年の作。その前年、ある音楽祭でメンデルスゾーンが指揮をした合唱団にフリードリヒ・アウレンバハとその友人テオドーア・ツィマーマンが共に参加していた。程なくしてツィマーマンが亡くなったのでアウレンバハは哀悼の詩を作ってメンデルスゾーンに作曲を依頼したのである。メンデルスゾーンはこの二人とは個人的な面識が無かったにもかかわらず心を動かされ、一週間足らずで完成をしてアウレンバハに送ったのであった。

Sahst du ihn herniederschweben	朝焼けの光の衣を着て
in der Morgenröte Lichtgewand?	彼がこちらへ漂い来るのをおまえは見たか。
Palmen strahlten in des Engels Hand;	天使が手にする棕櫚は光を放ち、
sein Berühren trennt des Geistes Leben	彼の霊は地上を覆う重い束縛から
von der Erdenhülle schwerem Band.	離れて生きる。

Wem, o Engel, rufet dein Erscheinen?
Sag, wem gilt dein Flug so ernst und hehr?
Was erblick ich! Aller Augen weinen,
ach, ihr Liebling ist nicht mehr!

おお天使よ、誰に呼びかけようとして来られたのですか。
教えてください、気高く荘厳な飛翔が誰のためになのか。
私は何を見いだすか。あらゆる目は泣いている。
ああ、あなた方の愛する子はもはやいないのだ。

Lächelnd schlief er ein, des Himmels Frieden
strahlt vom vielgeliebten Angesicht,
und die Mien´, in der sein Geist hienieden
sich verklärt, verließ ihn sterbend nicht.

微笑みながら彼は眠りにつき、天国の安らぎが
愛しい表情から輝き出している。
そして彼の霊がこの世で神々しく輝く、
その顔つきは死にゆく彼から消えない。

Hör mein Bitten

私の願いを聞いてください

1844年にウィリアム・バーソロミュウによる旧約聖書 詩編 第55編1〜9節の英語による意訳が原詩。バーソロミュウはメンデルスゾーンのオラトリオ「エリア」の訳にも携わった。この曲は詩の内容に従って、かなり性格の異なった主題旋律や楽節を展開するのだが、全体としては見事にまとめられていて調和の芸術の本質を実現している。なお、初稿はオルガン伴奏として作曲されたが、後になって作曲者自身の手によってオーケストラ伴奏に作り替えられている。本日は初稿で演奏する。

Hör mein Bitten, Herr, neige dich zu mir,
auf deines Kindes Stimme habe acht!
Ich bin allein;
wer wird mir Tröster und Helfer sein?
Ich irre ohne Pfad in dunkler Nacht!

主よ、私の願いを聞いて、耳を傾けてください、
あなたの子供の声を気にかけてください。
私は一人です。
誰が私を慰め、助けてくれるのだろう。
私は夜の暗闇に道もなく迷っている。

Die Feinde sie droh´n und heben ihr Haupt:
„Wo ist nun der Retter, an den ihr geglaubt?"
Sie lästern dich täglich, sie stellen uns nach
und halten die Frommen in Knechtschaft und Schmach.

敵は肩をそびやかして脅す、
「おまえが信じていた救い主はどこにいる」と。
敵は日ごとにあなたを罵り、私たちを追い回す。
そして信仰者を屈従と辱めに置く。

Mich faßt des Todes Furcht bei ihrem Dräu´n!
Sie sind unzählige, ich bin allein; mit meiner Kraft
kann ich nicht widerstehn,
Herr, kämpfe du für mich,
Gott, hör mein Fleh´n!

彼らは私を死の恐怖の虜にする。
彼らは無数におり、私は一人だ。自らの力では
抵抗できない。
主よ、私のために戦ってください、
神よ、私の哀願を聞いてください。

O könnt´ ich fliegen wie Tauben dahin,
weit hinweg vor dem Feinde zu fliehn!
In die Wüste eilt´ ich dann fort,
fände Ruhe am schattigen Ort.

おお、私が鳩のように飛び去って
遠く向こうへと、敵から逃れることができたなら。
急ぎ、荒野へと去り、
避けどころに平安を見いだすのだが。

Franz Joseph Haydn

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン

Responsoria de Venerabili
尊い秘跡のための応誦

詩は、聖体の祝日のために聖トマス・アクィナスが1263/64年に作詞した続唱の1～5、7、9、10節が基礎となっている。聖トマス・アクィナスは「神学大全」で名高いスコラ神学の大成者なので詩文は格調高い。しかし一方で神学的な難しさに満ちている。しかしハイドンはその中でも一般信徒が比較的平易に理解できる節を選んでいる。

全曲は単純明快で和声的な書法で作られていて、心からの敬虔さに溢れている。また楽章構成も（アンダンテ、ラルゴ、アンダンテ、ラルゴ）というテンポ設定と（変ロ長調、ニ短調、イ長調、変ホ長調）という調性の選択によって四つの楽章の循環的一体性を実現している。

調性の循環的一体性については少々の説明を要すると思う。変ロ長調 → ニ短調 → イ長調の進行は平行調を含む近親調関係の推移なので分かりやすい。しかし終曲で変ホ長調に一気に跳んでしまうのが解せないであろう。イ長調 → 変ホ長調は最も遠い調性関係だからである。しかしまさにその点に西洋的思考の特徴が現れているように思う。すなわち、それまでの一先ず順調な推移に対して終曲で対立（変ホ長調）が突きつけられ、全体の流れは一旦せき止められてしまう。しかし実は終曲の変ホ長調は開始曲の変ロ長調と五度の近親調関係である。かくて対立は弁証法的に止揚されて、終わりから始まりへと循環が成立するのである。

1.
Lauda Sion Salvatorem,
Lauda ducem et pastorem,
In hymnis et canticis.

Quantum potes, tantum aude:
Quia major omni laude,
Nec laudare sufficis.

2.
Laudis thema specialis,
Panis vivus et vitalis
Hodie proponitur.

Quem in sacrae mensa coenae,
Turbae fratrum duodenae
Datum non ambigitur.

3.
Sit laus plena, sit sonora,
Sit jucunda, sit decora
Mentis jubilatio.

In hac mensa novi Regis,
Novum Pascha novae legis,
Phase vetus terminat.

1.
誉め讃えよ、シオンよ、救世主を、
誉め讃えよ、君主にして牧者を
讃美歌と合唱で。

できる限り大胆に讃美せよ。
すべての称賛を越えているお方を
あなたは誉め讃えきることができないのだから。

2.
特別な讃美の題目、
すなわち命を宿し、命を与えるパンが
今日、示される。

神聖な晩餐の食卓で、
十二人の兄弟の集まりに
与えられたそのパンは疑いもない。

3.
讃美が満ちますように、響きますように。
喜ばしく、優美な
精神の歓呼でありますように。

新しい王のこの食卓で
新しい契約の、新しい過越の祝いが
古い過越を終わりにするのだ。

4.	4.
Quod in coena Christus gessit,	晩餐でなされた、そのとおりに
Faciendum hoc expressit	するようにキリストはお求めになった、
In sui memoriam.	キリストの記念として。
Docti sacris institutis,	教えられた神聖な設定によって、
Panem, vinum in salutis	救いのためにパンとワインを
Consecramus hostiam.	犠牲として捧げる。

Missa brevis Sancti Joannis de Deo

小ミサ曲　聖ヨハニス・デ・デーオ

このミサ曲の名称「聖ヨハニス・デ・デーオ」はポルトガルの聖人ヨハネ・チュダト(1495-1550)に由来する。ヨハネ・チュダトはキリスト教的愛徳に基づく医療福祉事業をおこなったので「神のヨハネ（ヨハニス・デ・デーオ）」と呼ばれた。その後、彼の生き方に共鳴して彼を模範と仰ぐ「愛徳修道士会」が設立された。この愛徳修道士会は、ハイドンが仕えるエステルハージ侯爵の宮殿があったアイゼンシュタットに教会を所有していたので、ハイドンは修道士会と親しく、その関係でこのミサ曲が生まれた。アイゼンシュタットの教会には当時のオルガンが今なお（1979年での時点）現存している。そのオルガンを弾きながらハイドンはこの曲の初演を指揮したのであろう。

このミサ曲にはまた「小オルガンミサ曲」の通称もある。「感謝の讃歌」の中にあるベネディクトゥス楽章がソプラノ・ソロと協奏的オルガンのためのアリアとして作曲されているからである。ここでは思わず歌ってみたくなるようなヴィルトゥオーゾ的主題がソプラノとオルガンの間に均一に分配される。それゆえ総合的にみて、ベネディクトゥス楽章を全曲のクライマックスとみなしてよい。ハイドンは「主の御名によって来られるお方（イエス・キリスト）」にミサの焦点を置いたのである。

Kyrie	**憐れみの讃歌**
Kyrie eleison.	主よ、憐れみたまえ。
Kyrie eleison.	主よ、憐れみたまえ。
Kyrie eleison.	主よ、憐れみたまえ。
Christe eleison.	キリストよ、憐れみたまえ。
Christe eleison.	キリストよ、憐れみたまえ。
Christe eleison.	キリストよ、憐れみたまえ。
Kyrie eleison.	主よ、憐れみたまえ。
Kyrie eleison.	主よ、憐れみたまえ。
Kyrie eleison.	主よ、憐れみたまえ。

Gloria	**栄光の讃歌**
Gloria in excelsis Deo.	天のいとも高いところではみ神に栄光。
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.	地では善意の人々に平和。
Laudamus te.	私どもはあなたを誉めます。
Benedicimus te.	私どもはあなたを祝福します。

Adoramus te.	私どもはあなたを敬慕します。
Glorificamus te.	私どもはあなたを崇めます。
Gratias agimus tibi	私どもはあなたへ感謝をあらわします、
propter magnam gloriam tuam.	あなたの大いなる栄光のゆえに。
Domine Deus, Rex caelestis,	神なる主にして天の王、
Deus Pater omnipotens.	全能の御父なる神よ。
Domine Fili unigenite Jesu Christe.	主なる一人子イエズス・キリストよ。
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.	神なる主よ、神の子羊、御父の御子。
Qui tollis peccata mundi,	世の罪を担われるお方、
miserere nobis.	私どもを憐れみたまえ。
Qui tollis peccata mundi,	世の罪を担われるお方、
suscipe deprecationem nostram.	私どもの哀願を取り上げたまえ。
Qui sedes ad dexteram Patris,	御父の右に座られるお方、
miserere nobis.	私どもを憐れみたまえ。
Quoniam tu solus sanctus.	あなたは唯一の聖なるお方なのですから。
Tu solus Dominus.	あなたは唯一の主なのですから。
Tu solus Altissimus,	あなたは唯一の至高なるお方なのですから、
Jesu Christe.	イエズス・キリストよ。
Cum Sancto Spiritu, in gloria Dei Patris.	聖なる御霊と共に、御父なる神の栄光のうちに。
Amen.	アーメン。

Credo	**信仰宣言**
Credo in unum Deum,	私は信じます。唯一の神にして
Patrem omnipotentem,	全能の御父、
factorem caeli et terrae,	天と地の創り主、
visibilium omnium, et invisibilium.	およびすべての見えるものと見えないものの創り主を。
Et in unum Dominum Jesum Christum,	私は信じます。唯一の主なるイエズス・キリスト、
Filium Dei unigenitum.	神の一人子であられる御子を。
Et ex Patre natum ante omnia saecula.	私は信じます。すべての時代に先んじて御父よりお生まれになった方を。
Deum de Deo, lumen de lumine,	私は信じます。神から出た神を、光から出た光を、
Deum verum de Deo vero.	まことの神から出たまことの神を。
Genitum, non factum,	私は信じます。創られないでお生まれになった方、
consubstantialem Patri:	御父に同体のお方を。
per quem omnia facta sunt.	そのお方からすべては創られました。
Qui propter nos homines,	そのお方は私ども人間のため、
et propter nostram salutem	私どもの救済のために
descendit de caelis.	天より降りて来られました。
Et incarnatus est de Spiritu Sancto	そして聖なる御霊によって
ex Maria virgine:	おとめマリーアから肉体を受け、
et homo factus est.	人となられました。
Crucifixus etiam pro nobis:	さらに私どもの身代わりとして十字架にかけられ、、
sub Pontio Pilato passus,	ポンティウス・ピーラートゥスによって苦しめられ、
et sepultus est.	葬られたのです。
Et resurrexit tertia die,	そして三日目に復活されました、

secundum Scripturas.	聖書の預言どおり。
Et ascendit in caelum:	のみならず、天に昇っていかれ、
sedet ad dexteram Patris.	御父の右の座についておられるのです。
Et iterum venturus est cum gloria,	そしてそのお方は栄光を伴って再び来られます。
judicare vivos et mortuos:	生きている者どもと死んだ者どもを裁くためにです。
cujus regni non erit finis.	そのお方の統治に終わりはないでしょう。
Et in Spiritum Sanctum, Dominum,	私は信じます。聖なる御霊にして主、
et vivificantem:	生気の付与者なる御霊を。
qui ex Patre Filioque procedit.	そのお方は御父と御子から出て来られるのです。
Qui cum Patre et Filio simul	聖なる御霊は御父や御子と同時に
adoratur, et conglorificatur:	敬慕され、讃えられます。
qui locutus est per prophetas.	そのお方は預言者をとおしてお告げになられました。
Et unam sanctam catholicam	私は信じます。唯一、神聖、普遍にして
et apostolicam Ecclesiam.	使徒よりの継承なる教会を。
Confiteor unum baptisma	私は唯一の洗礼を認めます、
in remissionem peccatorum.	罪の赦しに至るための洗礼を。
Et exspecto resurrectionem mortuorum.	そして私は待ち望みます、死者たちの復活を。
Et vitam venturi saeculi.	のみならず、私は待ち望みます、来る世のいのちを。
Amen.	アーメン。

Sanctus	**感謝の讃歌**
Sanctus, Sanctus,	聖なる、聖なる、
Sanctus Dominus Deus Sabaoth.	聖なる主にして万軍の神よ。
Pleni sunt caeli et terra gloria tua.	天と地はあなたの栄光で満たされています。
Hosanna in excelsis.	天のいとも高いところではオザンナ（我らに救いあれ！）。
Benedictus qui venit in nomine Domini.	祝福されたお方、主のみ名において来られるそのお方は。
Hosanna in excelsis.	天のいとも高いところではオザンナ（我らに救いあれ！）。

Agnus Dei	**平和の讃歌**
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:	世の罪を担われる神の子羊よ。
miserere nobis.	私どもを憐れみたまえ。
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:	世の罪を担われる神の子羊よ。
miserere nobis.	私どもを憐れみたまえ。
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:	世の罪を担われる神の子羊よ。
dona nobis pacem.	私どもに平和を与えたまえ。

東京アマデウス合唱団のご案内（2009.10 現在）

少人数に適したルネッサンスやバロック時代の宗教曲を積極的に取り上げて、他の合唱団ではあまり歌うことの無い隠れた名曲を歌ってみたい方をお誘いしております。

今後の活動予定は下記の通りですが、少人数のバロックのアンサンブルを一緒に楽しみたい方や興味のある方が居られましたら、是非一度下記の練習会場にお出掛け頂き、見学だけでも大歓迎ですので練習状況等をご覧頂きたいと願っております。

下記ホームページをご参照の上、「護国寺」の同仁キリスト教会内の「美登里幼稚園」へお出掛けいただきたく、団員一同期待してお待ちしております。（事務局　大久保ルミ子）

http://homepage2.nifty.com/Amadeus/

来年の演奏会(創立 30 周年記念)

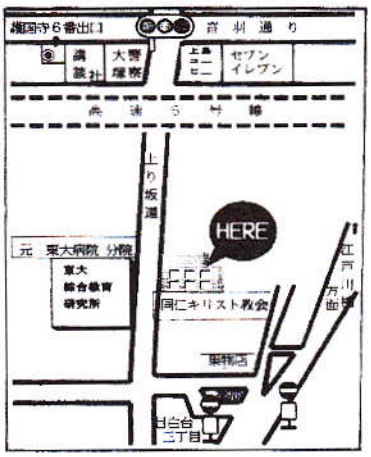
「日時」　2010 年 11 月 3 日(水・祝)　15 時 開演(予定)
「会場」　同仁キリスト教会(予定)
演奏曲目(予定)
　ディートリッヒ・ブクステフーデの曲

参加ご希望の方へ(下記へ電話等でご連絡の上、お出で下さい)

お問い合わせ先　**辻 村 順 子　048-476-4056**
　　大久保ルミ子　03-3960-7714

練習日　毎週水曜日　午後 6 時半～9 時
練習場所　同仁キリスト教会美登里幼稚園 2F
指導者　水野克彦
会　費　月　額　5 千円(学生半額)
　　入会金　1 千円

同仁キリスト教会案内図



(練習場所への交通案内)右図参照
＊地下鉄有楽町線
　「護国寺」駅下車　6 番出口から徒歩 5 分
＊JR 山手線「目白」駅よりバスで
　　「目白台 3 丁目」下車　徒歩 3 分

東京アマデウス合唱団(＊は賛助出演)

ソプラノ　河合佐知子・田部恵美・辻村順子
アルト　伊藤正子・大久保ルミ子・大友美佐・小川由美子
**　　馬場昌代・宮崎米子・＊堀江和子**
テノール　小沢 仁・片岡 繁
バス　柿沼 哲・野口 碩・＊水野克彦

演奏会の記録

	開催年月	主な演奏曲目	指揮	会場
第1回	1981.02	**モーツァルト**(レクイエム<ジュスマイヤー版>)	寺村博司	石橋メモリアル
第2回	1981.11	**ヘンデル**(メサイア)	渡辺央己	中央会館
第3回	1982.11	**フォーレ**(レクイエム)、**ジョスカン・デプレ、シュッツ**	鈴木　優	東京カテドラル
第4回	1983.09	**モーツァルト**（戴冠式ミサ）、**ヴィクトリア**	黒岩英臣	東京カテドラル
第5回	1984.09	**モーツァルト**(レクイエム<ジュスマイヤー版>)	黒岩英臣	東京カテドラル
第6回	1985.10	**J.S.バッハ**(カンタータ106)、**ブクステフーデ、ハスラー**	宮本昭嘉	石橋メモリアル
第7回	1986.10	**モーツァルト**(グローセミサ)、**ヴィクトリア**	鈴木　優	練馬文化センター
第8回	1987.10	**シュッツ、ハスラー**(ミサ・セクンダ)	鈴木　優	石橋メモリアル
第9回	1988.12	**モーツァルト**(ヴェスペレ339)、**J.ハイドン**	齋藤明生	駒場エミナース
第10回	1989.11	**モーツァルト**(レクイエム<バイヤー版>)	齋藤明生	練馬文化センター
春の小演奏会	1990.05	**ジョスカン・デ・プレ**(パンジェ・リングゥ)、**ハスラー**	齋藤明生	石橋エオリアン
第11回	1991.02	**モーツァルト**(リタニア243)、**J.M.ハイドン**(ヴェスペレ)	齋藤明生	石橋メモリアル
第12回	1991.11	**モーツァルト**(ドミニクス・ミサ、サンクタ・マリア・マーテル・デイ)	齋藤明生	川口リリアホール
第13回	1992.11	**シャルパンティエ**(真夜中のミサ)、**シュッツ、ブクステフーデ**	齋藤明生	石橋メモリアル
第14回	1993.11	**モーツァルト**(ミサ・ブレヴィス275)、**アルブレヒツベルガー**	齋藤明生	石橋メモリアル
15周年記念	1994.11	**モーツァルト**(レクイエム<ドルース版>)**渋谷混声と合同**	齋藤明生	新宿文化センター
第15回	1995.10	**J.S バッハ**(カンタータ182)、**ブクステフーデ**	齋藤明生	石橋メモリアル
第16回	1996.11	**モーツァルト**(ヴェスペレ339)、**アルブレヒツベルガー**	齋藤明生	石橋メモリアル
第17回	1997.10	**モーツァルト**(ミサ・ソレムニス337、テデウムラウダムス)	齋藤明生	石橋メモリアル
第18回	1998.10	**J.S バッハ**(カンタータ61・196)、**D.スカルラッティ**	齋藤明生	石橋メモリアル
第19回	1999.10	**ラインベルガー**(スタバトマーテル)、**J.M.ハイドン**	齋藤明生	石橋メモリアル
斉藤先生追悼	2000.07	**ハスラー、メンデルスゾーン、ホミリウス**	水野克彦	同仁キリスト教会
クリスマス	2000.12	四つのアヴェマリア(**アルカデルト、ジョスカン・デ・プレ、ヴィクトリア、パレストリーナ**)	水野克彦	旧上野奏楽堂
第20回	2001.11	**モーツァルト**(トリニターティス・ミサ)、**J.ハイドン**	水野克彦	石橋メモリアル
第21回	2002.10	ドイツ・バロック(**J.C.F バッハ、シュッツ、ブクステフーデ**)	水野克彦	所沢文化センター
第22回	2003.11	**ラインベルガー**(スタバト・マーテル)、**アルブレヒツベルガー**	水野克彦	ルーテル市谷センター
第23回	2004.10	**D.スカルラッティ、パレストリーナ、モンテヴェルディ**	水野克彦	カトリック麻布教会
第24回	2005.11	**シュッツ、テレマン、ブクステフーデ**(カンタータ)	水野克彦	カトリック麻布教会
第25回	2006.11	**レヒナー**(受難曲)、**ゼレンカ**(レスポンソリア)	水野克彦	カトリック麻布教会
第26回	2007.10	**ブクステフーデ**(カンタータ6曲)	水野克彦	カトリック麻布教会
第27回	2008.11	5人のヨーハン(**J.S.バッハとその親戚4人**)	水野克彦	カトリック麻布教会
第28回	2009.10	**メンデルスゾーン、J.ハイドン**(レスポンソリア)	水野克彦	カトリック麻布教会
第29回	2010.11	**ブクステフーデ**(予定)	水野克彦	同仁キリスト教会

アンコール曲

Deutsches Nunc dimittis Opus 69, Nr. 1
Mendelssohn

Herr, nun lässest du deinen Diener in Frieden fahren,
wie du verheißen hast.
Denn mein Auge hat deinen Heiland gesehn,
den du bereitet hast vor allen Völkern,
daß er ein Licht sei den Heiden,
und zu Preis und Ehre deines Volkes Israel.

Herr, nun lässest du deinen Diener in Frieden fahren,
wie du verheißen hast.
Denn mein Auge hat deinen Heiland gesehn,
welchen du bereitet vor allen Völkern,
daß er ein Licht sei den Heiden,
und zu Preis und Ehre deines Volkes Israel.

Herr, nun lässest du deinen Diener in Frieden fahren.

Doxologie
Ehre sei dem Vater und dem Sohne und dem heilige Geist.
Wie es war zu Anfang,
jetzt und immerdar und von Ewigkeit zu Ewigkeit.
Amen.

ドイツ語によるシメオンの頌歌　作品番号６９－１
メンデルスゾーン

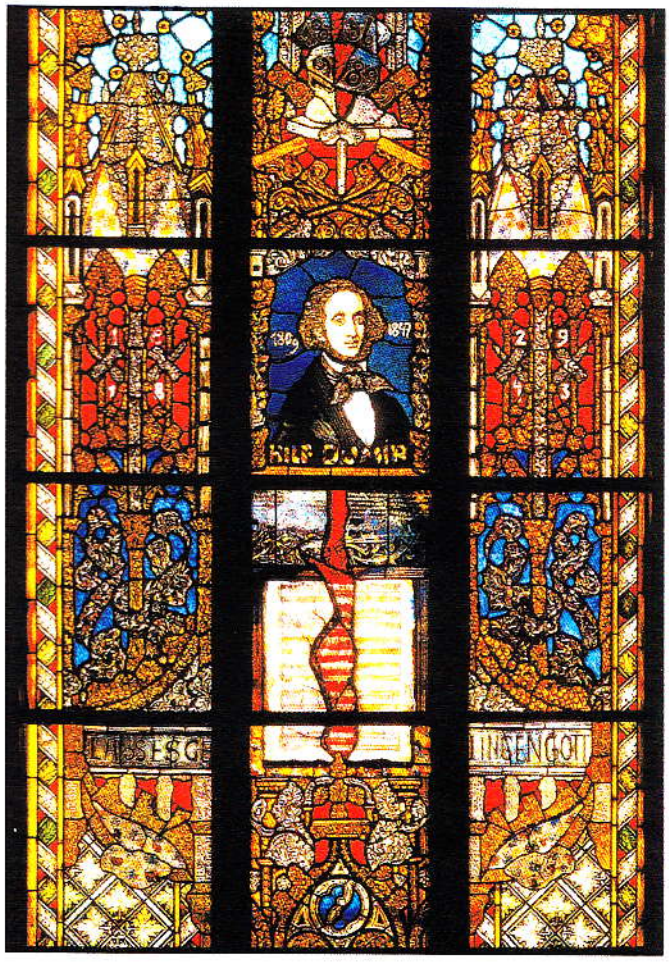
主よ、あなたは今こそしもべを平安のうちに逝かせられます、
あなたがお約束してくださいましたように。
なぜならしもべの私が救い主を見たからです。
あなたはそのお方をすべての民の前に備えてくださいました。
異教徒には光として、
あなたの民イスラエルには誉れと栄光として。

主よ、あなたは今こそしもべを平安のうちに逝かせられます、
あなたがお約束してくださいましたように。
なぜならしもべの私が救い主を見たからです。
あなたは救い主をすべての民の前に備えてくださいました。
異教徒には光として、
あなたの民イスラエルには誉れと栄光として。

主よ、もう私は安心してあなたのもとへ参ります。

頌詠
栄光、御父と御子と聖霊にあれ。
始めにそうであったように、
今もこれからも、そして永遠から永遠に。
アーメン（真に）。

Lukas 2, 29 - 32 + Doxologie　新約聖書 ルカ福音書２章２９－３２節と頌詠



Thomaskirche Leipzig(Mendelssohn)

F.Mendelssohn.B

F.J.Haydn

SINCE 1980

Tokyo Amadeus Chorus